

新約聖書の中の祈り 第 11 回

□「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□「使徒の働きにおける祈り」・・・「使徒の働き」の中から、27 の祈りの事例を見る。
本日は、第 4 から第 7 の、4 つの事例

聖書の中に出てくる祈りには、二つのタイプがある。ひとつは、定型文を暗唱しての祈り、もう一つは、その場その時に自分の心の中から出て来たことばで祈る祈りである。

前者は、現代でいえば「祈りの本」による祈りである。状況や場面に応じた祈りの文があらかじめ書かれていて、それを読むか、暗唱して、祈る。

後者の祈りは、英語では、**extemporaneous prayer**（イクステンパレニアス プレイヤー）という。直訳すれば、即興の祈り。音楽でたとえると、楽譜によらず、即興で演奏するというようなタイプの祈りである。日本語では適切な訳語は難しいが、以下では、「即興の祈り」と呼ぶこととする。

4. 使 3 : 1 ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。

- (1) 当時、エルサレムの神殿では、神殿域において、時間を決めて集団での祈りがささげられていた。その祈りは、定型文を暗唱しての祈りであった。参照：ルカ 1 : 10 「福音書における他の祈り」の事例 第一
- (2) 初代教会の信者たちも、それまでの習慣を変えることなく、宮に上って祈りの時間を守っていた。ペテロとヨハネも、その目的で、宮に上って行った。
- (3) ここでの祈りは、使徒たちや初代教会の信者たちであっても、定型文を暗唱しての祈りであった。

5. 使 4 : 24~31

- (1) 24 節 これを聞いた人々は心を一つにして、神に向かって声をあげた。「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です。
 - ① 心を一つにして・・・グループでの祈り、そして即興の祈り
 - ② 神に向かって・・・父なる神に向かっての祈り
 - ③ 声をあげた・・・声に出しての祈り
 - ④ 父なる神を、特に、創造者なるお方として聖別している

- (2) 25～28 節・・・指導者たちがイエスをどのように扱ったかをあらためて述べる。
- ① 祈りの中で、出来事の経緯を述べることは、祈る人の心の中で、そのときの状況がまざまざと浮かんでいることを示す。
 - ② このようにして祈るとき、祈りは空虚で形式的なものではなく、生き生きとしたものとなる。
- (3) 29～30 節・・・特別な願い求めを祈る。30 節の訳文の語順に注意（波線部）
- 「主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。また、御手を伸ばし、癒しとしるしと不思議を行わせてください。あなたの聖なるしもべイエスの名によって。」
- ① 祈りの内容は、二つ。
 - 神が指導者たちによる脅かしを打ち消してくださり、使徒たちが神のことば、すなわちイエスはメシアであるということを大胆に語ることができるように。
 - 彼らの語ることが、いやしとしるしと不思議により証明されますように。
 - ② 祈りの最後は、「イエスの名によって」
 - イエスは、逮捕される前、使徒たちに祈りのための新しい基盤を与えた。それは、「わたしの名によって」祈るということである。その箇所、ヨハネ 14:13～15 を、原文を直訳したものを、参考のために資料の最後に記載する。
 - 使徒たちは、このイエスの命令に従い、ここでは、「あなたの聖なるしもべイエスの名によって」ということばで、祈りを締めくくった。
 - 注意：祈りの最後に必ず、「イエスの名によって祈ります」と言わなければならない、ということではない。祈るときに、イエスの權威によって、イエスに代わって、イエスのために（ひいては、父なる神の栄光のために）、祈っているという自覚が必要である、ということ。
- (4) 31 節 彼らが祈り終わると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。・・・祈りに対する 3 つの結果
- ① その場所が揺れ動いた・・・神の臨在のしるし
 - ② 一同は聖霊に満たされた・・・彼らが、聖霊の支配を受けた
 - 「満たす」ということばの意味は、支配する
 - 聖霊の満たしというとき、満たすレベルが多い、少ないといった程度の差があることを、聖書は想定していない。満たされているか、いないか、そのどちらかである。すなわち、聖霊の支配を受けているか、いないか、のいずれかである。
 - ③ 大胆に神のことばを語りだした

6. 使 6 : 4 私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。
- (1) 専念します・・・直訳は「私たちは続けます、着実に、祈りを」
 - (2) エルサレムの初代教会において、使徒たちは長老としての立場も兼ねていた。
 - ① 長老たちは、その一群の信者たちを監督し、導く役割を負う。
 - ② その役割を果たす上で、まず自分たち自身のために祈る、すなわち、その役割を果たすことができるように祈る必要がある。そして、次に、群れの信者たちのために祈る。
 - ③ この祈りが、長老たちの第一の責務である。
 - (3) やもめたちへの毎日の食料配給（使 6 : 1～2）などの庶務は、執事の役割として区分された。
7. 使 6 : 6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。
- (1) 使 6 : 3～6 初代教会における最初の執事たち 7 人の任命のときのこと
 - (2) 5 節 7 人の名前がギリシヤ風であることから、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちの中から選任されたと思われる。7 人のうち、「アンティオケアの改宗者ニコラオ」は、改宗者とあるので、民族的にはユダヤ人ではなく、異邦人であり、ユダヤ教に改宗していた人でイエスをメシアとして信じた者、である。
 - (3) 執事を任命するのは、その群れの長老の役割。初代教会においては、使徒たちが長老の役割を負っていたので、使徒たちが 7 人の執事の任命を行った。
 - ① 手を置くのは、任命のしるし
 - ② 任命の前に、祈った。祈りの内容は、7 人の執事たちがその役割を果たすことができるようにという祈り。
 - (4) 【補足】使徒たちが手を置いたことの結果・・・癒しとしるしと不思議を行うことのできる力は、本来、使徒たちに与えられたもの。使徒としてのしるしである。その使徒たちが 7 人の執事たちに手を置いたことで、7 人の執事たちは、使徒たちの特使となり、彼らもまた、特別な力を受けた。
 - ① 使 6 : 8 ステパノは恵みと力に満ち、人々の間で大いなる不思議としるしを行っていた。
 - ② 使 8 : 6 群衆はピリポの話を聞き、彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、そろって関心を抱くようになった。
 - サマリヤ人への宣教においては、特に、しるしが必要であった。それは、サマリヤ人の中に、魔術師シモンがいて、魔術によって人々を驚かしていたからである（使 8 : 9～11）

□ヨハネ 14 : 13~15 「イエスの名によって」 祈る

ヨハネの福音書 14 章は、イエスが使徒たちと最後の過越の食事をともにしたときの記事である。この中で、イエスは、9 つの約束を与えてくださった。

1. 2 節 メシアは私たちのために場所を備えてくださる
2. 3 節 メシアは私たちを迎えに来てくださる
3. 12 節 使徒たちとそれに続く信者たちは、メシアよりもさらに大きなわざをする
 - これは、質的ではなく、量的に（地勢的範囲と時間的長さにおいて）である
4. 13~15 節 私たちの祈りは答えられる
5. 16~18 節 私たちのために聖霊が来られる
6. 21 節 私たちは父なる神と子なる神によって愛される
7. 23~24 節 父なる神と子なる神は、私たちの内に住んでくださる
8. 26 節 聖霊によって教えられる
 - 特に、使徒たちが、イエス昇天後の約 60 年の間に、新約聖書を書きまとめるにあたり、聖霊によって正確に事実関係やイエスの教えを思い起こすことができた
9. 27 節 神の平安
 - この世にあっては、真の平和はない。メシアの王国を待たねばならない
 - しかし、この世で何事が起きても、父なる神の御手のうちにあると確信できるとき、信者の心の中には、神の平安がある。
 - ヨハネ 16 : 33 「イエスにあって平安を得る」

イエスは、第四の約束において、祈りのための新しい基盤を与えた。それは、「わたしの名によって」祈るということである。その箇所、ヨハネ 14 : 13~15 を、原文を直訳したものは、次のとおりである。

注意：求める先は父であり、イエスに求めるのではない。参照 ヨハネ 16 : 23

- 13 節 また、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、わたしはそれをしましょう。父が子によって栄光を受けるためです。
- 14 節 もし、あなたがたがわたしの名によって何かを求めるなら、わたしはそれをしましょう。
- 15 節 もし、あなたがたがわたしを愛するなら、わたしの命令をあなたがたは守るでしょう。

13 節は、祈りに関する、とても大切な命令である。あらためて 14 節でそれを繰り返し、15 節で、私たち信者がイエスを愛するなら、イエスの命令を守るはずであると教えている。